

磐城時報

編輯者 石城郡平町新屋町十四番地 印刷者 同 印刷所 同

平町資源開發の具體案を協議

愈々實行に入る

平町では屢報の如く極度の財政目佐藤木工場で製造してゐる木難に陥つてゐるので資源開發の地玩具類の製造を盛ならしめ

一、平町の物産中で將來助長せしむべきもの 二、平町で新たに起すべき産業 三、平町の物産中で將來助長せしむべきもの

石城出身高木中佐を招き 海軍記念日の式典 式後講演會を開く

来る二十七日は日本海軍の演習を行ふ等であるが、高木中佐は海軍中佐高木武雄氏が臨席する事には勿論、錦、平、大浦の四ヶ

全部就業に決定

拓務省からの通知に接し 磐城炭礦で大喜び

磐城炭礦高坂坑が事業縮小の結果、北海道廳立小樽商業一家族百四十八名が旅費、手當小樽商業學校は二十五學級で生

三校野球戦 双葉中學 平商、磐中の野球試合は六月五日午前九時から磐中球場で試み

吉田校長 小樽に榮轉 平商業學校校長吉田利吉氏は今回

自動車が 自轉車に衝突 石城郡上遠野村大字塚田鈴木子之吉方抱運轉手新野喜一(三三)

薄幸の老爺 平署に救ひを求め 二十三日夕刻平署人事相談所の窓口をおとつた一飯はめぐんで

泥棒して女郎買ひ 豪遊中捕はる 石城郡川前村大字上福賣大工職同家に二回忍び入つて現金二十

女給の盗み 平町四丁目カフエタイガール方女給齋藤よ(十七)假名は去る十一日

磐中對平商業 野球第一回戰評 (上) ハチ切れさうな元氣を以て如何にしても此の一戦を我もの

磐中對平商業 野球第一回戰評 (下) 然磐中対平の三壘打と、渡邊の機打に依つて二点を揚げ、

磐中對平商業 野球第一回戰評 (中) 商業のラストイニングに磐中の投手死力を盡して喰止めん

磐中對平商業 野球第一回戰評 (下) 此の試合は第一回戦に反して両者の意氣全く壯。最初より

公債

勸業債券 高價買入
電話賣買
御一報次第店員參上可仕候
平町五丁目二二

佐々木株式店
電話二五三番

各種運動具...特賣

- ▲野球用具
- ▲庭球用具
- ▲各種運動服裝
- ▲月星運動靴

御用命は 大塚運動具部へ
平・田町 電話七七番

外科

病室完備 平町南町
X光線科
上田外科醫院
電話二二九番

外科 日本醫科大學
婦人科 醫學士 額賀毅
耳科 咽喉科 四倉町新町
咽科 咽喉科 電話四番
內科 咽喉科
小兒科 咽喉科
花柳科 咽喉科
(入院隨意) 院長 額賀襄

耳鼻咽喉科 專

氣管食道科 門
病室完備...自炊の便あり
平町南町 大和田醫院
電話一七〇番

肉の値下

牛上肉 (百匁目)	五十錢
鳥肉 (同)	五十錢
豚肉ロース (同)	四十錢
豚肉上 (同)	三十錢
豚肉中 (同)	二十錢

四倉町本町 武田肉店
電話三十二番

ソーダフアンテン
生ビール開始
ビンツメであります
レストラン サロン
電三五二番

平町田町 (電話五二三番)
高久病院
醫學士 高久忠
新編醫學士 赤羽清
藥劑士 佐竹菊
內科 小兒科 外科 花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科
雄清忠

蓄積安心 融通低利
三乘無盡
許免臣大藏大
社會盡無用信本湯
番七四話電

胃腸 專科
內科 專科
十二指 腸胃病
皮膚病 淋病
毒校
院醫科 腸胃病
(七〇一話電) 町南町平

大藏大臣許免
磐城無盡
誠意堅實
儲蓄 味趣融金易簡

印刷物の御注文は
加納活版所へ
最新式機械増設
御名刺・葉書等は
御待ち中に仕上げます。
平町字紺屋町
加納活版所
電話四〇九番

魚清自慢の
特製 みつ豆
例年の通り始めました
多少に拘はらず 出前迅速
平町二丁目
魚清食堂部
電話六三三番

外科 專科
花柳病科 專科
平町六丁目橋際
木村外科醫院
電話三〇九番
吉田眼科病院
平町紺屋町 電話六八番